



大森山公園 整備基本計画

概要版

秋田市大森山動物園



1. はじめに

大森山公園は、JR秋田駅から南西約7kmに位置し、標高123.5mを頂に、北側に緩やかに伸びた丘陵地にあり、昭和42年11月に都市計画決定された面積70.5haの都市公園であり、日本海沿岸の広域観光拠点として、にぎわい創出、多様な交流と連携を構築することにより、地域経済の活性化、秋田市を代表する景観、県都秋田市を再発見する眺望点の緑、山麓の豊かな自然環境の保全、命と生きることの大切さを知り動物の命をつなぐ環境教育の場として多様な役割を担っています。

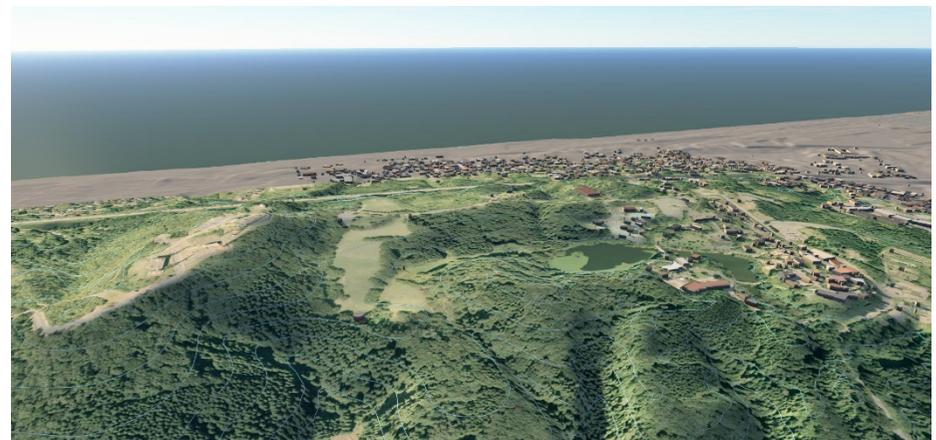
平成22年3月に策定した「大森山自然動物公園（仮称）整備構想」（以下「整備構想」という。）では、公園内の各施設の老朽化や、電気、水道などの基盤施設の抜本的な改修、更新時期への対応とともに、大森山動物園を広域観光拠点として更なる魅力向上を図ることを目的に、長期的な視点から公園の自然と調和を持ちつつ、機能整備を推進することを定めています。

この整備構想については、社会情勢の変化とともに新たな課題も生じ、更なる交流人口の拡大とにぎわい創出に向けた取組により大森山自然動物公園による観光振興を一層推進するため平成29年12月に見直しを図っており、整備構想の具現化に向け、必要となる施設整備や、民間企業、学校、地域と協力・連携した取組を推進していくため「大森山公園整備基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定したものであります。

1.1.1 基本計画策定の背景・目的

大森山公園の整備を進めていく上で必要な課題の整理と整備の方針については、整備構想に掲げ、実現に向けた取組の方向性を示しています。

今回新たに定める基本計画は、整備構想に基づいた考え方を土台とし、人口減少や少子高齢化の進行といった諸課題を踏まえ、豊かな自然や景観との調和を図りながら、大森山公園を将来にわたり市民の憩いの場として親しまれ、より魅力的な観光拠点として整備するため、秋田市大森山動物園条例に掲げた「大森山の豊かな自然の中で、動物との出会いおよびふれあいを通して、市民のレクリエーションの場を提供することにより、自然および命の大切さについて学び、かつ、動物の命をつなぐ場を目指す」という理念を根幹として、大森山動物園を核としたにぎわいの創出、大森山動物園と公園の連絡性を高める整備、公園内の資源を効果的に活用した回遊性の創出、繁忙期の渋滞緩和とアクセスの向上に重点を置き策定するものです。



1.2 基本計画について

■大森山公園・大森山動物園の年表

大森山公園		大森山動物園	
		1950年(S25)	秋田県児童会館付属動物園開園
		1953年(S28)	秋田市児童動物園(秋田市に移管)
1969年(S44)	子供の国、研修センターのほか、実習農場や牧場、動物園、キャンプ場整備		
1970年(S45)	「大森山少年の家」建設(実習農場)グリーン広場(多目的広場)、展望広場、フィールドアスレチック整備		
		1973年(S48)	秋田市大森山動物園 開園
1976年(S51)	彫刻の森設置		
1979年(S54)	老人と子どもの家(体育館、浴室)		
		1984年(S59)	親善動物やキリンなど新たな人気動物の導入、ふれあいランドや以降
		2010年(H22)	大森山自然動物公園(仮称)整備構想策定
2012年(H24)	公園施設管理運営一元管理		
		2013年(H25)	エンリッチメント大賞受賞
		2014年(H26)	ビジターセンター オープン
2017年(H29)	大森山アートプロジェクト	2017年(H29)	大森山自然動物公園(仮称)整備構想改訂
		2019年(H31)	野生生物保護功労者環境大臣表彰
			エンリッチメント大賞受賞
		2021年(R3)	新サル舎整備

1.2.1 計画対象範囲

基本計画は、大森山公園の都市計画公園区域を対象範囲とします。

■基本計画の対象範囲および面積

計画対象範囲	大森山公園（都市計画公園区域）
計画対象面積	都市決定面積 70.5ha（うち未開設面積 1.19ha）

1.2.2 計画地周辺の用途地域

大森山公園は市街化調整区域にあり、計画地の北側及び西側は住居系の用途地域（第1種中高層居住専用地域、第1種居住地域、第1種低層住居専用地域）が隣接しています。

また、大森山公園を含む周辺の一帯は、大森山風致地区（129.2ha）に指定されています。

1.2.3 計画期間

計画期間は、事業着手から概ね5年毎に短期、中期、長期に区分し、段階的な整備目標として設定します。

■基本計画の期間

短期	中期	長期	継続
早期に対応すべき施策 (概ね5年以内)	相応の準備期間を要する施策 (概ね10年以内)	次世代への継承も想定して対応すべき施策 (概ね15年以内)	主に教育、環境の分野などにおける企業、地域等との連携による継続的に取り組む施策

1.2.4 基本計画の構成

(1) 整備方針

コンセプトと整備方針の基本的な考え方は、整備構想を継承するものです。

また、公園全体で7つのゾーンを設定し、ゾーンごとに特色を生かした整備方針とし、ゾーン内、各ゾーン間および公園全体の動線整備のあり方を計画します。

■整備構想のコンセプト

「大森山の自然と調和し、市民とともに成長し続ける公園づくり」

■整備構想における分野別の整備方針

分野	整備方針
自然	自然とともに息づく動物園の再整備
観光	新たな魅力による観光拠点としての再生
教育	豊かな人間形成に資する体験学習の場の創出
環境	資源循環システムの構築とエコへの挑戦
協働	市民や企業と協働により成長し続ける施設の構築

■整備構想におけるゾーニング

ゾーン名称	位置づけ
エントランスゾーン	公園利用者の拠点となるゾーン
動物展示ゾーン	大森山自然動物公園の核となるゾーン
水と森のゾーン	現況自然の保護、活用を図るゾーン
原っぱのゾーン	多目的な広場のゾーン
眺めのゾーン	雄大な眺めを楽しむゾーン
体験学習ゾーン	体験学習ゾーン
自然緑地ゾーン	秋田市を代表する景観の礎となるゾーン

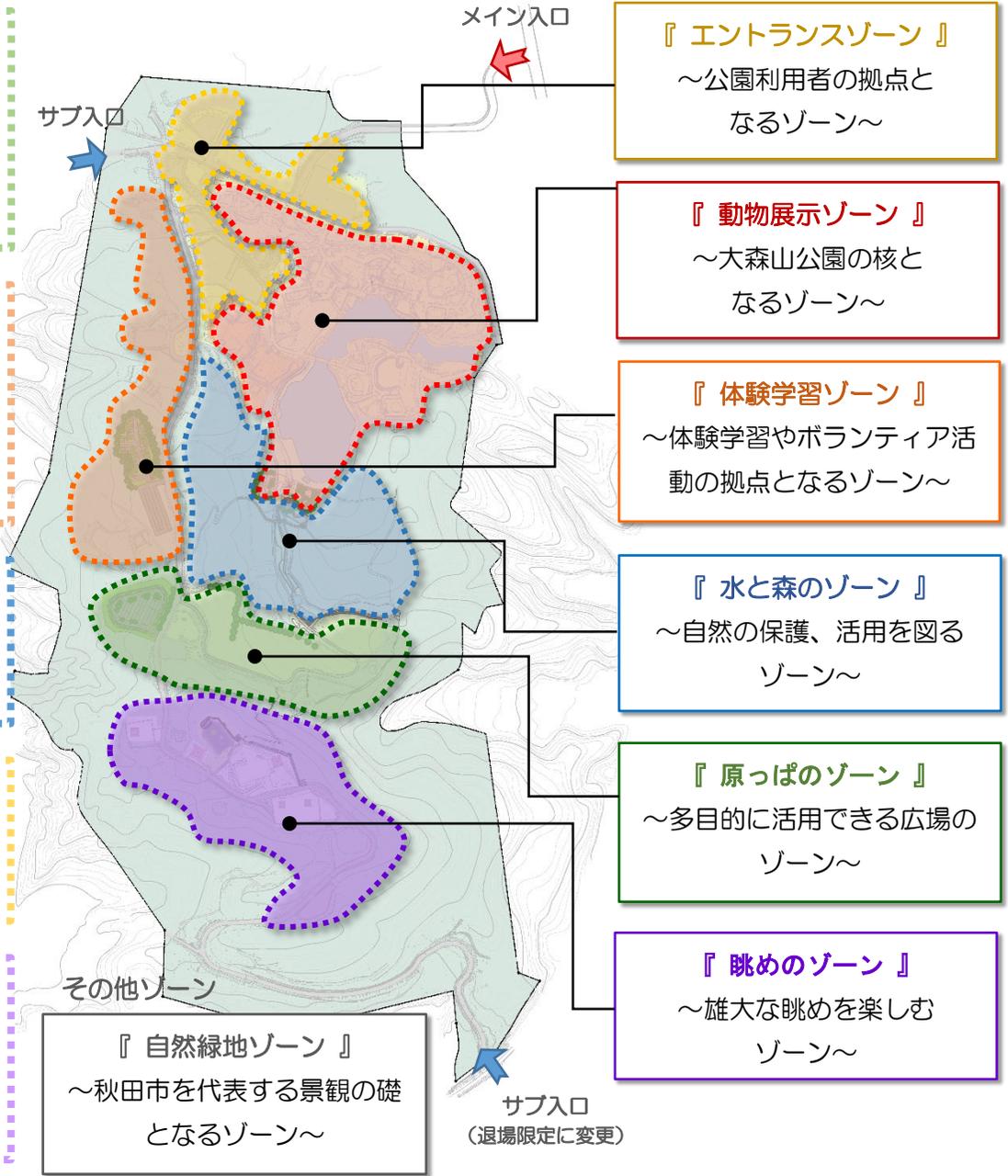
自然 ～自然とともに息づく動物園の再整備～
 公園内の核となる大森山動物園の園路改修や老朽化した飼育施設について、動物が持つ本来の行動が再現できるような飼育展示環境の整備を進めるとともに、塩曳湯の環境保全等について自然と調和した整備を進めます。

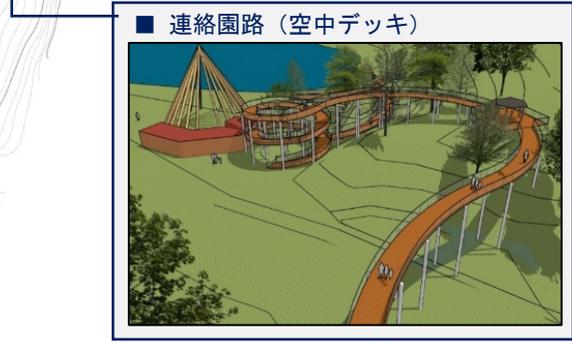
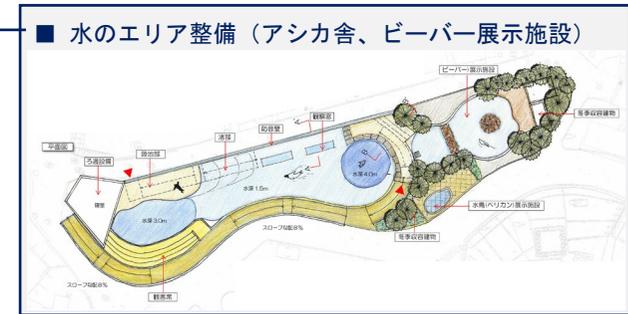
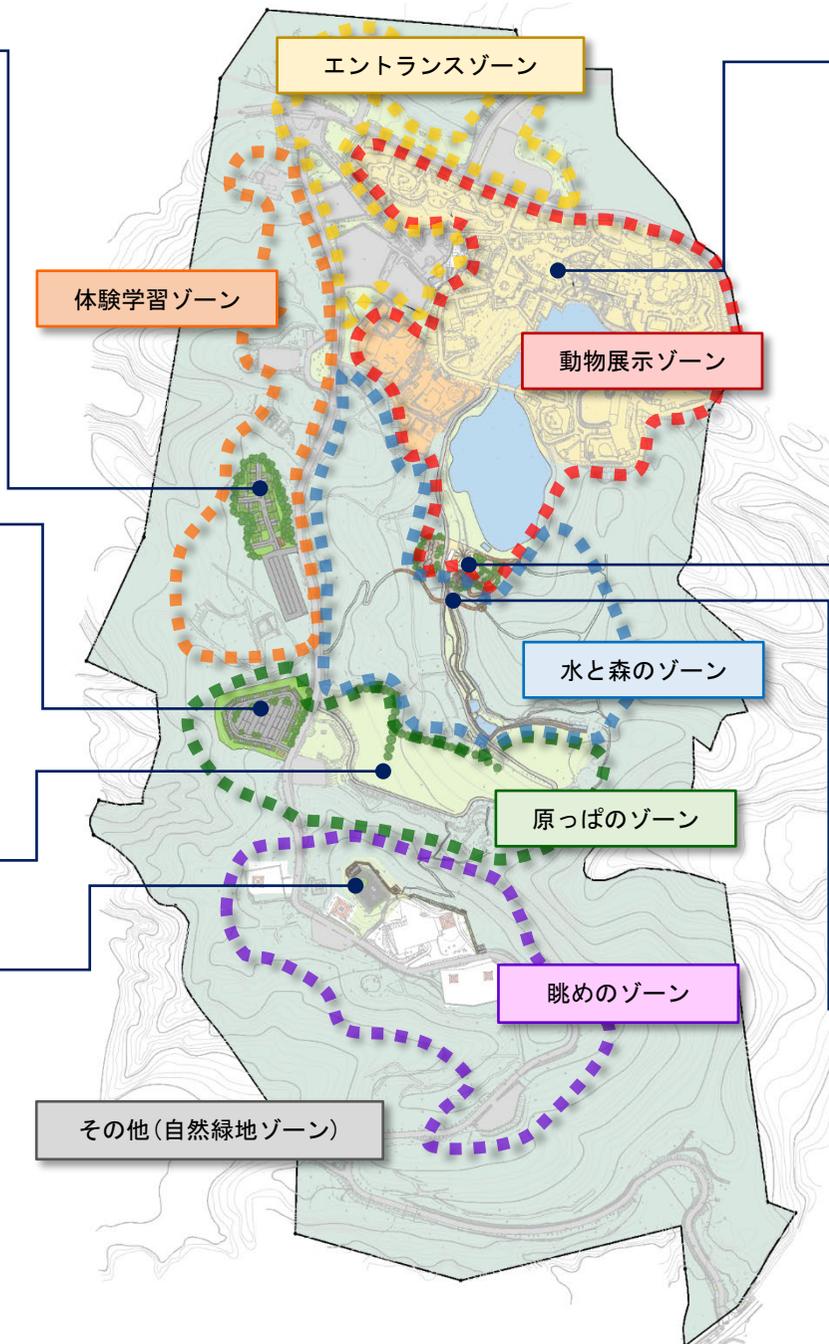
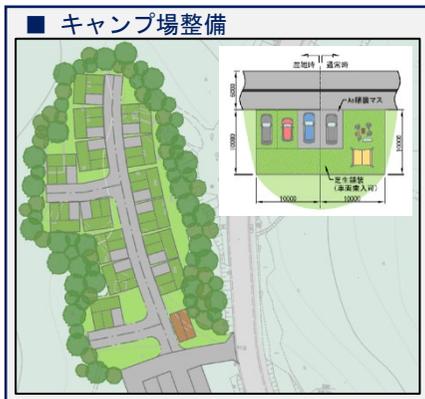
観光 ～新たな魅力による観光拠点としての再生～
 ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮しながら、大森山動物園、大森山公園グリーン広場、キャンプ場、大森山山頂の展望台等の再整備を進めるとともに、混雑時の渋滞緩和対策や、十分な駐車スペースの整備を進めます。

教育 ～新たな魅力による観光拠点としての再生～
 自然の生態を学ぶことができる公園としての整備を進めるとともに、環境学習の場として大森山動物園の利用促進を図ります。

環境 ～資源循環システムの構築とエコへの挑戦～
 大森山公園においても新エネルギー、省エネルギーの導入などの検討を進めます。

協働～市民や企業との協働により成長し続ける施設の構築～
 多様なボランティア団体の活動を受け入れるほか、地元企業、周辺施設、教育機関との連携を強化します。





2. 推進プロジェクト

整備計画を実施するにあたり、各ゾーンにおける整備内容を連携する推進プロジェクトを設定します。

2.1 にぎわい創出プロジェクト

2.1.1 目的

動物園、公園内施設を魅力ある施設に改修し、何度でも訪れたいくなる施設づくりに努め、来園者数の増加を目指します。

2.1.2 主な施設整備

- ◆アシカ舎などの老朽化した施設を、より集客力のある魅力的な施設となるよう整備、改修し、段階的で継続的な整備に努めます。
- ◆グリーン広場と現在の動物園間に自然豊かな園路を整備し、南側に水と森ゾーン側から動物展示ゾーンへとつながるゲートを整備し、休憩機能、管理機能、展示機能を兼ね備えた施設とします。
- ◆公園内にある桜の木約560本は、利用者に癒しを与える空間をつくっており、大森山の豊かな自然と秋田市を特徴づけているスカイラインを保持するため、市西部のみどりの拠点として保全、整備を図ります。
- ◆遊園地の運営会社と連携し、夢のある楽しい空間づくりに努めます。
- ◆自然が豊かで快適に利用できる空間や海を望みながらのオートキャンプなど、新たな客層の確保に努めます。

2.1.3 主な仕組みづくり

- ◆市内をはじめ県内の幼稚園、保育所、小学校の遠足や校外学習の利用を推進し、県全域からの恒常的な利用を確保します。

- ◆動物園とその周辺の公園を一体的にPRし、幅広い集客に努めます。
- ◆雪を生かしながら冬期に動物園を楽しんでもらい、入園者の増加につながるよう、通年開園を目指します。
- ◆周辺（宿泊）施設とのセット商品の開発と販売やイベントなどについても継承すると同時に、より利用促進を図る方法を検討します。
- ◆ビジターセンターの食事処や食事の提供方法、秋田産品等の物販販売などについて、来園者のニーズを調査、分析し検討します。
- ◆秋田公立美術大学と連携し、動物園をギャラリーに見立てアート作品を園内に展示したり、市民参加型のアートイベントを開催するなど、アートの動物園という特徴を発信します。
- ◆大森山動物園応援会と協力し、夜の動物園などのイベント開催時にミニコンサートを開催するなど動物園と音楽との融合を図り、幅広い年代に動物園をアピールします。
- ◆誰もが分かりやすく、見やすい、また、インバウンドに対応した外国語表記などのサイン表示を適切に配置するほか、最新の情報に更新していきます。
- ◆地元振興会、秋田公立美術大学および新屋ガラス工房と相互に連携し、イベントや商品開発などに企画段階から協働で取り組む体制づくりや事業の実施、運営により、地域の情報発信やにぎわいづくりに努めます。
- ◆動物園ボランティアガイドのほか、緑地管理、環境学習、イベントの企画実施など様々な分野でのボランティア活動を積極的に受け入れ、公園の利用促進、発展の関係を創出、構築に努めます。

2.2 回遊性創出、移動円滑化プロジェクト

2.2.1 目的

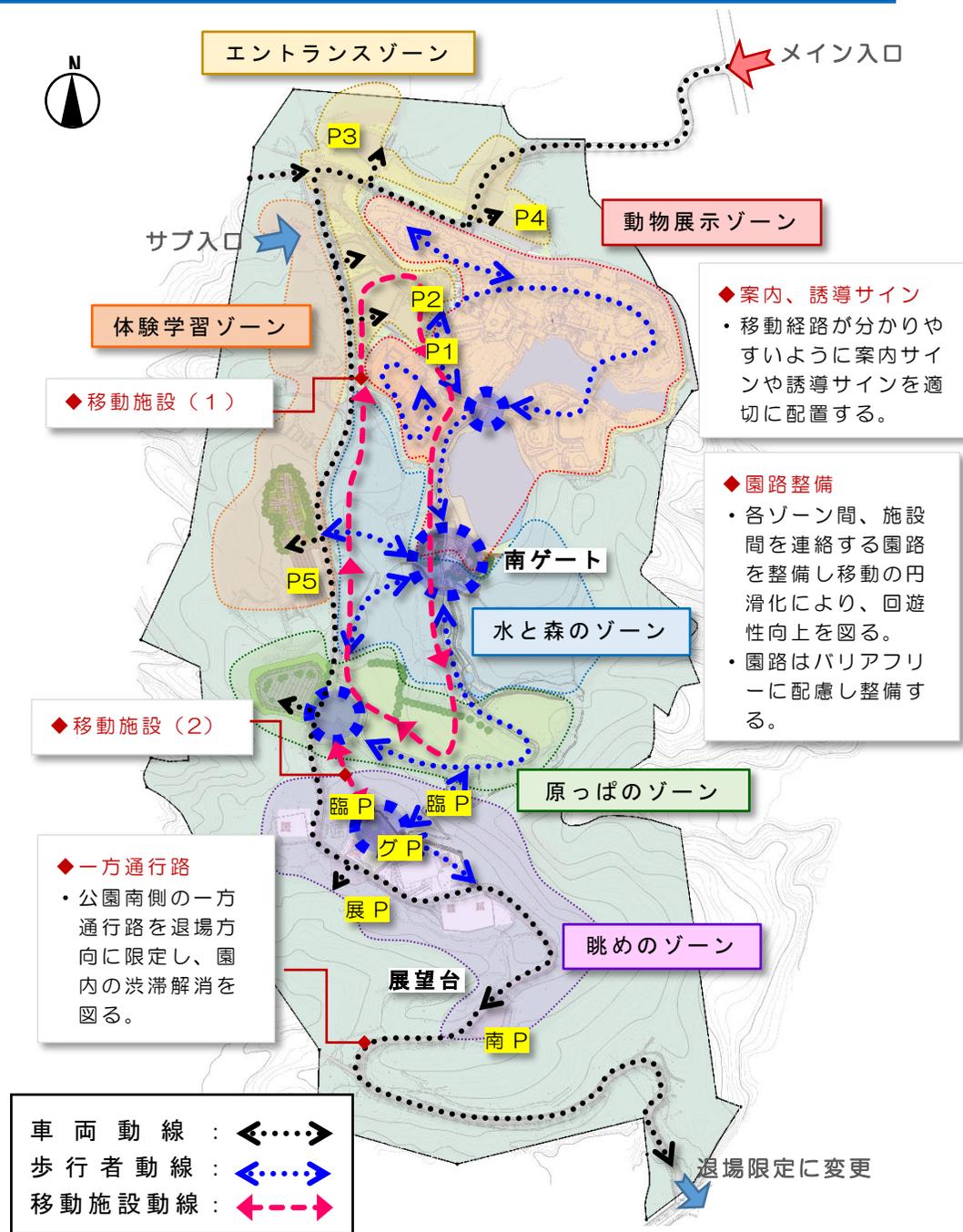
動物園来園者が大森山公園全体を利用してもらえるように、拠点となる施設を整備、改修し公園全体の回遊性を向上させます。大森山公園の各拠点、ゾーン間の移動施設を整備することで利用者の移動の円滑化、効率化を図ります。

2.2.2 主な整備内容

- ◆ 土、日、祝日等の来園者数に対応した。公園内駐車場の拡充整備を進めます。
- ◆ 公園内の豊かな自然環境や展望台をはじめ、園内遊園地などの拠点施設間を移動する施設の導入を検討し、公園施設間につながりを持たせます。
- ◆ 公園の核となる動物展示ゾーンへの出入り口として、南側にゲートを整備し、一体的な利用と利便性の向上を図ります。
- ◆ 南側からの一方通行となっている公園道路の車両動線について、退出方向への転換をするために関係部署との調整を進めます。
- ◆ 動物展示ゾーンで使用している井戸水の冬期開園時における急坂路の無散水融雪システムへの活用を検討します。
- ◆ 部分的に急勾配で階段の多い園路があるため、遊園地を運営する企業等と連携しながら、子どもや年配者、障がい者等が動物観覧や移動について負担の少ない手段、移動施設を整備します。

2.2.3 主な仕組みづくり

- ◆ ゴールデンウィークなど駐車場使用状況や渋滞発生状況を速やかに周知し、来園者サービスの向上に効果的な情報発信を図ります。



2.3 持続可能な動物園運営管理プロジェクト

2.3.1 目的

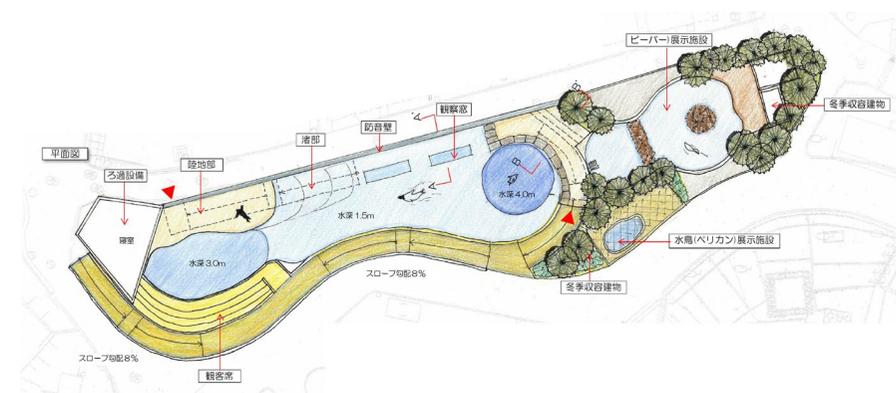
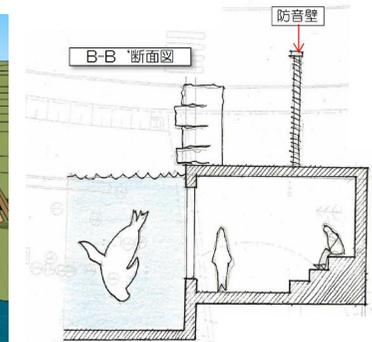
将来にわたり親しまれる動物園とするため、主要動物、希少種の繁殖、保存に努めるとともに、運営管理方法の改善、人材確保、人材育成に努めます。

2.3.2 主な管理運営

- ◆動物の入手が困難な時代の中、アシカ、トラなど主要動物や希少種の繁殖、保存に努めるとともに、新たな動物の導入についても検討し、アシカ、トラなど主要動物や希少種については、飼育展示施設に増殖ストックスペースを併設します。
- ◆冬期降雪期にも雪を生かしながら動物園を楽しんでもらえるように、通年開園を目指します。
- ◆民間企業の理念を取り入れ、動物園を経営する視点から、利用者ニーズを的確に把握し、利用者へのサービスを最大化することに努めます。
- ◆環境負荷を低減するために、施設改修には類似施設を集約、一体化させ、熱エネルギーの効率化と管理コストの低減化を図ります。
- ◆再生可能エネルギー、省エネルギー機器の導入に努め、燃料費や光熱水費の節減を図ります。
- ◆秋田に生息する小動物等を大森山の自然のなかに展示、共生する空間を創出するなど、秋田の自然環境、自然植生を生かした整備を行います。

2.3.3 主な人材確保・人材育成

- ◆動物園は、「レクリエーション」「種の保存」「教育」「調査、研究」など幅広い機能を有していることから、キュレーターやホテルのコンシェルジュのようなホスピタリティを備えた人材の確保と育成に努めます。
- ◆円滑な動物園運営を行うため、マーケティング、広報、展示デザインなどに関わる人材と組織づくりに努めます。



2.4 整備スケジュール

■ハード事業の整備スケジュール

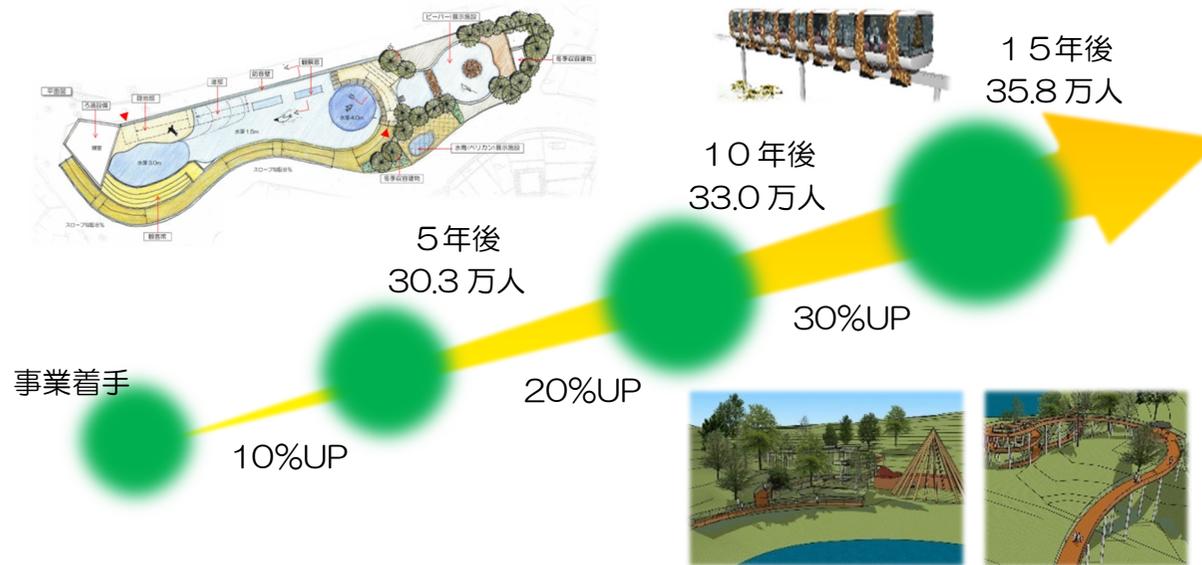
項目	整備内容	整備スケジュール		
		短期 (概ね5年以内)	中期 (概ね6~10年)	長期 (概ね11~15年)
自然	アシカ舎およびその周辺の改修	→		
	秋田の郷土の森（小動物園）		→	
	希少種の増殖ストックスペース		→	→
	ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備		→	→
	園内バリアフリー化、ユニバーサルデザイン導入	→		
	サクラ等植生保全、創出	→		→
観光	公園道路交通処理再整備	→		
	駐車場拡充整備（オートキャンプ場）、駐車場情報等提供、なべっこ広場		→	
	施設間園路、管理用道路（塩曳湯、空中デッキ等）	→		
	展望台周辺整備		→	
	急坂路無散水融雪システム			→
	施設間移動施設導入（民間活力の導入の検討）	→		→
	南ゲート整備	→		
	グリーン広場再整備			→
教育	※ハード事業なし			
環境	LED 照明灯、太陽光発電			→
	無散水融雪システム			→
	スギ植林地間伐		→	
協働	サクラの木の保全、整備（市民などとの協働）	→		

■ソフト事業の整備スケジュール

項目	整備内容	整備スケジュール		
		短期 (概ね5年以内)	中期 (概ね6~10年)	長期 (概ね11~15年)
自然	利用者目線からの大森山自然動物公園の運営	→		
	土地等使用料の見直しや収入増につながる取組	→		
	燃料費や光熱水費の節減	→		
	遠足や校外学習の利用促進	→		
	動物園とその周辺の公園の一体的PR	→		
	周辺施設とのセット商品の開発	→		
	ビジターセンターの食事処や食事の提供方法、秋田産品等の物販販売	→		
	アートの動物園という特徴の発信	→		
	幅広い年代への動物園のアピール	→		
	SNS を活用したリアルタイムの情報発信	→		
観光	周辺の動物園や水族館等との連携企画	→		
	通年開園の検討	→		
	旅行会社やクルーズ 船社等へのセール活動	→		
	観光情報サイト、隣県へのテレビCM等の活用	→		
教育	バリアフリー、ユニバーサルデザインの採用	→		
	校外学習、社会教育の場として利用促進	→		
環境	※ソフト事業なし	→		
協働	人材確保、育成	→		
	キューレーター、コンシェルジュ確保・育成	→		
	マーケティング等の人材、組織づくり		→	
	ボランティア活動の受入れ	→		
	公園内への広告事業の導入や冠イベントの導入	→		
	地元企業、教育機関との連携	→		
	遊園地運営会社、アクティビティ運営会社との連携	→		

2.5 需要推計と波及効果

大森山動物園の令和元年度の年間利用者数は 27.5 万人であり、近年の入園者の推移は横ばい傾向であるが、秋田県全体の観光客数は増加傾向にあり、基本計画で立案した整備内容を実施することで入園者数が増加するとともに、その集客力の公園全体への波及が予想され、公園全体が一体的な観光拠点としてにぎわいが創出されることにより、周辺観光施設等への波及効果、経済効果が見込まれます。



■整備効果・波及効果

推計動物園入園者数	30.3 万人	33.0 万人	35.8 万人
推計公園利用者数 (動物園入園者に対する割合)	3.3 万人 (11%)	4.3 万人 (13%)	5.3 万人 (15%)
推計公園内宿泊客数	0.24 万人	0.26 万人	0.27 万人
推計公園全体利用者	34.6 万人	36.5 万人	41.1 万人
波及効果	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田市内観光客（宿泊）増加 ・公園南側利用者の増加 ・秋田産品等物販拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習、環境教育活性化 ・ボランティア活動活性化 ・官民連携拡大 ・自然環境保全、創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口拡大 ・ｲﾝﾌﾞﾙﾄﾞ 需要拡大 ・自然植生保全
経済効果（5年間）	20.7 億円	38.6 億円	44.5 億円

■計画期間毎の整備イメージ

短期（概ね5年以内）	中期（概ね10年以内）	長期（概ね15年以内）
<p>◆アシカ舎周辺【一部】</p> <p>動物園</p> <p>◆塩曳潟護岸</p> <p>◆南ゲート整備【一部】</p> <p>◆施設間園路、管理用通路</p> <p>公園</p> <p>◆公園道路交通処理再整備</p>	<p>◆アシカ舎周辺</p> <p>動物園</p> <p>◆オートキャンプ場</p> <p>◆ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備【一部】</p> <p>◆南ゲート整備</p> <p>◆施設間園路、管理用通路</p> <p>◆展望台周辺整備</p> <p>◆駐車場・なべっこ広場</p> <p>公園</p>	<p>◆移動施設導入（園内回遊）</p> <p>動物園</p> <p>◆ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備</p> <p>◆グリーン広場再整備</p> <p>◆移動施設導入（施設間移動）</p> <p>公園</p>
<ul style="list-style-type: none"> 施設間園路、管理用通路（塩曳潟護岸等） 南ゲート整備【一部】 公園道路交通処理再整備 アシカ舎およびその周辺の改修【一部】 	<ul style="list-style-type: none"> 施設間園路、管理用通路（空中デッキ等） 南ゲート整備 展望台周辺整備 駐車場拡充整備（オートキャンプ場、なべっこ広場） ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備【一部】 アシカ舎およびその周辺の改修 秋田の郷土の森（小動物園） 	<ul style="list-style-type: none"> ゼニタナゴ保全池、周辺環境整備 グリーン広場再整備 移動施設導入（施設間移動、園内回遊）

大森山公園整備基本計画

【概要版】

2021年3月

編集・発行

秋田市

お問い合わせ先

秋田市大森山動物園

〒010-1654 秋田市浜田字潟端154番地

電話 018-828-5508

FAX 018-828-5509